

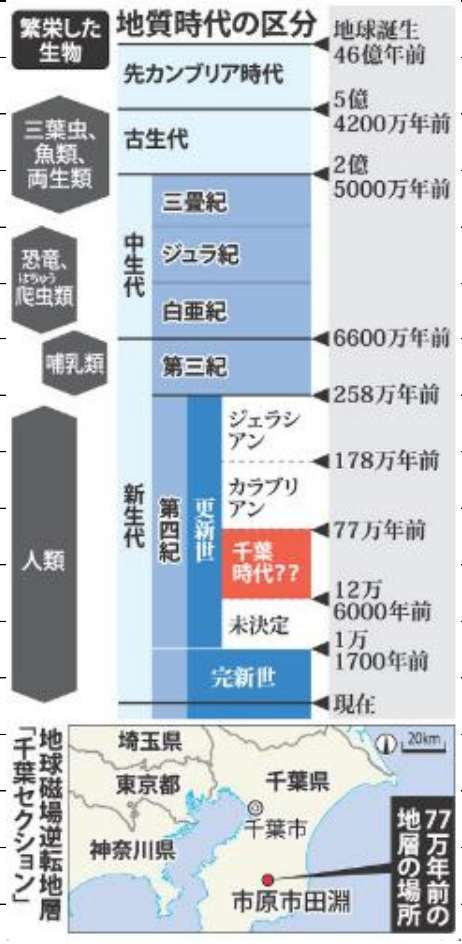
## 「省エネルギー学習会」

会議年月日	29年7月7日	時間	13:30 ~ 16:00	場所	流山市生涯学習センター(1F)
-------	---------	----	---------------	----	-----------------

出席者	石垣、平手、新田、増永、大塚、難波、高橋、横須賀、春田(記) (ホワイトボードに向かって時計回り順に記載、敬称略)
-----	--

### 議 題

1, 千葉の歴史・古代(流山博物館友の会 石垣幸子)	
①	チバニアン(千葉時代)
②	黒潮に乗って様々な人や物が到来して千葉の歴史を形成した。
	・ヤマトタケルの命伝説
	・斎部(忌部)の祖・天富命が阿波の斎部の一部を率いて安房へ。
	・源頼朝も石橋山で敗れて三浦から安房に上陸
	・初代里見義実も、伝説では頼朝と同じく海路を安房に上陸
	・地引網は紀伊、和歌山などの西国の漁民によって伝えられた。
	・勝山の捕鯨。銚子の醤油も摂津・紀伊などから
③	約3万年前
④	縄文時代
⑤	弥生時代
⑥	古墳時代
⑦	645年 大化の改新
⑧	平将門の乱 平忠常の乱
⑨	治承4年(1180)8月



2, 千葉の醗酵文化(ちば観光・文化検定 春田育男)	
①	ちば観光・文化検定=2008年に第1回検定試験が開始され第3回まで実施されたが現在は休止。
②	きき酒師=日本酒サービス研究会(SSJ)が認定する民間資格
③	千葉県のイメージ(1分動画で見る)
④	千葉県の醗酵文化(みりん、醤油、日本酒)
⑤	千葉県の日本酒

<次回予定>

・日時=8月4日(金)13:30~15:30	・場所=流山市生涯学習センター(3F)大会議室
・内容=天気図を描いてみよう!	・講師=石井 皓(千葉県地球温暖化防止活動推進員)

## 千葉の歴史（古代）

「チバニアン」の間、テレビで放送していた。地球は過去に何度もN極とS極が入れ替わっていた。最後の逆転が77万年前だったとされています。その最後の逆転現象が市原市養老川沿いの地層から見るができるということで、「国際標準模式地」として国際学会に申請するという。認められれば約12万6000年前から77万年前の時代が「チバニアン」と呼ばれるようになるという。そのころには房総半島があったということ。

房も総も「ふさ」と読み、花や実が茎や枝にむらがりつき、垂れ下がる状態を指す言葉で、もともと総の国として朝廷から把握されていた。

房総半島は東と南を外洋、西は東京湾、という具合に三方を海に囲まれている。

そして東北方、利根川、霞ヶ浦、印旛沼、手賀沼など多くの湖沼が散らばる一帯はかつては「香取の海」と称する大きな入海でした。西北方は東京湾が奥深くまで入海で、太日川という湿地帯でした。古代から中世（戦国時代）までは房総は半島というより、四方を海や川で取り囲まれた「島」であった。

外洋に面した半島の南は、西国からの移住や開拓が黒潮に乗って海岸部から始まった。それゆえに半島の南部の方が都に近いと上の総「上総」となり、北部は下で、「下総」となった。

太古以来、黒潮によって様々な物や人間が到来し、千葉県を形作ってきた例

### ●ヤマトタケルの命伝説

景行天皇の皇子で、天皇から東国平定の詔が下り、東征に下る。相模の三浦半島から走水の海（今の浦賀水道）を渡り、上総に入ろうとしたが、渡りの守が大波を起こして渡海できなくなった。そのため、妃のオトタチバナヒメが海に身を投じて、ようやく波が収まって、上総に地にわたることができたという。三浦半島から上総の国にわたるのが古代の交通ルートであった。

### ●また、一族を引き連れて移動した、斎部氏。

大同2年（807）斎部広成が朝廷の祭祀に仕えていた自分の家の伝承を主張した「古語拾遺」の中に書かれている。「斎部（忌部）の祖・天富命が阿波の斎部の一部を率いて東へ大移動を行い、麻を栽培して成功した肥沃な地である。阿波の名を取って安房と名づけた。」と見える。

安房神社は天富命がこの地に上陸したとき祭神天太玉命を祀ったもので、平安期には安房一宮であった。安房大神は天平2年以降、大膳職で、御食津神として祀られていた。このころから中臣氏の常陸の鹿島神宮が神格の地位をあげていった。そして次第に斎部氏は没落、と同時に安房神社も地位を低下させていく

●中世の幕開けとなった源頼朝も石橋山で敗れて三浦から安房に上陸、この地で体制を立て直して鎌倉へと入っていった。

●戦国時代の南房総の覇者里見氏、その初代里見義実も、伝説では頼朝と同じく海路を安房に上陸たちまち成功を収めてという。

●近世、江戸時代に入って、九十九里浜の地引網が盛況を見せたが、それらは紀伊、和歌山などの西国の漁民によって伝えられた。それまでの房総の漁業は自給的なものであった。そのほかにも勝山の捕鯨。又銚子の醤油も摂津・紀伊など関西からの技術の導入によって始まったとされる。

## 約 3 万年前

房総に降り立ったのは旧石器時代人。この時代の遺物は関東ローム層の下の赤土と呼ばれる地層から石器が出土する。旧石器人の人骨はもちろん住居跡も千葉県ではまだ見つかっていません。見つかったのは局部磨製石斧で刃の先の部分だけ研磨した石斧です。千葉県内には石器の原料となる黒曜石などのかたい石はありません。黒曜石の産地は長野県や箱根、伊豆神津島産の黒曜石も見ついています。交易によるものか。丸木舟を漕ぎだしたのか？

当時は氷河期にあたっていて大陸と陸続きだったとみられ、ナウマンゾウやオオツノシカと言った大型の動物を食糧にしていた。

## 一万 3 0 0 0 年ほど前（縄文時代）

氷河期が終わり日本列島の気温が温暖化し、現在のような姿になった。氷河が解けて、縄文海進と呼ばれる陸地の奥まで海水が入り込んだ。

この時代は土器の時代と言われ、素晴らしい芸術品の土器がつくられました。その土器により煮炊きが可能となりました。貝塚はごみ捨て場です。貝塚は縄文時代を中心に弥生・戦国時代までありますがその 80%は縄文時代です。そして貝塚は古東京湾沿岸に集中しているのです。流山辺りにもたくさんの貝塚があり、縄文集落が発掘されています。こんなに奥の方まで海が入ってきていた様子が知れます。アサリ、ハマグリといった採集しやすい食料が豊富にあり、その貝を土器で煮炊きしたのでしょうか。人々は食糧が安定的に確保できるようになると集落を営み、同じ場所で暮らすようになります。住居は竪穴住居で、中央に炉が切っけられています。貝塚はごみ捨て場なので、壊れた土器や道具、動物の骨なども残っている。貝塚を調べれば当時の生活が見えてくる。

千葉市にある加曾利貝塚が国の特別史跡に指定されることになりました。ここは縄文中期の北貝塚と後期の南貝塚からなり、周辺には約 2000 年間にわたって人々が暮らし続けた「ムラ」の跡が広がっている。ここからは栗、クルミなどの木の実、猪や鹿の骨、雉や鴨など鳥の骨など。また、「狩猟革命」と言われた弓矢が発見され、狩が容易になったことが分かる、縄文人は森の幸や海の幸を食料に豊かな食生活を楽しんでいた。

## 弥生時代

弥生時代は稲作の始まりと言われていたが、いまや縄文時代晩期には本格的な稲作がおこなわれていたといわれている。

千葉県内ではこれまで古い時期の水田はまだ見つからない。流山でもあんなに華やかだった縄文集落が姿を消している。加村台などに小さな集落があるだけ。

水稻稲作が営まれるようになるとこれまでと異なった、コメという蓄積可能な余剰穀物が生まれることとなり、階級社会が発達してきて、大規模な環濠集落が形成され、本格的な水稻農耕が展開されるようになっていった。

部落をまとめる首長が現れ、葬送儀礼が変化し、首長のための奥つ城である方形周溝墓が営まれるようになった。ヤリカンナ、斧、刀子など鉄製品は武器というより、墓の中から出土することが多い。

## 古墳時代

弥生墳丘墓には地域的な特色がみられたが、前方後円墳には全国的に画一性を持った定型的な企画に基づいて築造された古墳である。

房総には平成 2 年の時点で、8665 基の古墳が確認されている。100m を超える前方後円墳も 14 基を数

える。全国でも最も前方後円墳が多いという。

大和勢力の東国進出はヤマトタケル命の東征伝説に投影されているとみられるが、相模から総の国への途上、走水の水難と妃オトタチバナヒメの死などからこの地を納めるにあたり、かなりの犠牲を払ったものと思われる。

市原市の稲荷台1号墳から出土した鉄剣に文字が刻まれていた。僅か6文字しかよみ取ることができないが「王賜」と読める。当時の東アジア地域で王の漢字を用いるのは大和王権の首長だけである。倭の五王の一人であろう。日本列島の中でも剣や鏡が下賜されたことが出土品で判明しているが、ほとんどの剣や鏡に文字は記されていない。おそらく中央に行って勲功をあげた人物だろう

弥生時代には少なかった集落が古墳時代に入ると大きな村が営まれるようになる。古墳時代は鉄器の時代と考えられているが、前期には農具など鉄の生産道具は普及していない。農具などに鉄製の刃先を装着するようになるのは中期以降である。古墳時代の住まいは縄文、弥生と同じく竪穴住居であるが、壁の一辺にカマドが存在するようになる。後期に大規模な集落遺跡が増加するのは、生産力の増加もさることながら住居内にカマドの出現が大きいと考えられる。カマドはそれまでの調理方法をかえて、より多くのコメが簡単に蒸すことができるようになり、労働力の増加に結びついていった。

市野谷遺跡から墨で文字が書かれた土器が発掘された。まだ文字による伝達は行われていない時代。間違いなく文字と言える墨書土器は全国でも最古だという。

**645年** 大化の改新を経て、大和朝廷の組織が整備されていった。

民衆は大和朝廷の支配下に組み込まれ、防人の供給、租・庸・調の貢物など重い負担がのしかかっていった。

都を離れた土地に国司として下向した中・下級貴族たちは在地の市営領主たちと結び、自らも私営領主となり、勢力を拡大していった。

桓武天皇の曾孫高望王に始まる坂東平氏。治安のみだれと共に武装を強化させていった。領主同士の争い、民衆の不満で反乱が発生するようになっていった。

**平将門の乱 平忠常の乱**、は房総の地を舞台に起こった争いであった。忠常の乱の時、忠常の子・常将は追討使源頼信に降伏したため、以後も一族は頼信の子孫をリーダーと仰ぎ、前九年の役、後三年の役を源頼義、義家に従って参戦している。房総平氏一族は、常将の孫の世代以降、房総各地の郡や郷の名を苗字とし、地域の開発を進めていった。

**治承4年(1180)8月**、

源義朝の子頼朝の伊豆における挙兵は、東国社会のエネルギーが爆発した瞬間だった。

石橋山の合戦に敗れた源頼朝が安房の地に到着、1か月足らずで房総三国の支配に成功した。千葉常胤は安房に到着した頼朝の呼びかけに応じ、直ちに下総国府を攻撃、上総の広常は2万騎とも伝わる大軍を編成して頼朝に従った。このように房総三国をいち早く支配下におさめた頼朝は鎌倉に入って新たな軍事政権を成立させていった。

## 年表

年代	出来事
200万年前	このころ日本近海で黒潮、千島海流、親潮などが完成。ほぼ日本列島の骨格が出来上がる
77万年前	市原市養老溪谷に「チバニアン」確認、「国際標準模式地」申請
10万年前	アフリカで新人(ホモサピエンス)が出現、各地へ拡散
3万年前	房総で局部磨製石斧(刃先の部分だけ研磨した石斧)出土。旧石器人の足跡
1,3万年前	氷河期が終わり、温暖化が進み、海面上昇、日本列島が大陸から分離し、今の日本列島の形になる。
1万2000年前	縄文土器が使用され始める。
縄文中期	温暖化が進み、全国に村が広がると人々の暮らしは一層豊かなものとなった。 古東京湾沿岸にたくさんの貝塚が作られ始める 千葉市若葉区に加曾利貝塚国の特別史跡に指定(H29/6)
約2300年前	縄文晩期には福岡県板付遺跡など最古の縄文水田が発見、水稻の稲作農耕が北部九州に伝わった。またたくまに西日本に伝わり、そして関東に伝来した。 弥生前期から中期にかけての県内の遺跡は少ない。
弥生後期	農耕集落が房総全域にみられる。方形周溝墓が作られる。このころの鉄製品は斧、鎌、鑿、ヤリカンナ、刀子などの限られた道具。
3世紀後半	古墳時代に入ると多種多様な鉄製農工具、ヤスなどの漁具などが発達し、古墳時代は鉄の時代といわれる。前方後円墳が築造される。
5世紀半ば	市原市造られた直径30mの円墳、稲荷台1号古墳から「王賜」の文字が象嵌された鉄剣が出土した
478年	倭国王の武の上表文に「東は毛人を制すること55国」とある。 景行天皇の皇子・ヤマトタケル伝承
645年	大化の改新 大和朝廷の組織が整備。東国に8人の国司を任命 房(総)の国は上総(県南部)、下総(県北部)に2分された。 安房国は718年(養老2)(上総国の南部を分割して作られた。) 天富命が四国の斎部(忌部)氏の一部を率いて房総に上陸、麻を栽培、故郷の阿波から安房と名づけた(古語拾遺) 安房神社はここに上陸したとき祀ったもの。
663年(天智2)	倭・百濟軍、白村江で唐に大敗
670年	庚午年籍が作られる
702年(大宝2)	大宝律令 国には国庁、郡には郡家が設置 安房国は南房総市府中、上総は市原市惣社、下総が市川市国府台に国府が置かれた。
741年	聖武天皇、国分寺、国分尼寺建立の詔、房総3国に国分寺・尼寺が建立。
826年	上総、常陸、上野の3国の守に親王を任ずる制度が開始、太守。
907年(延喜7)	「延喜式」に下総国に高津、大結、木嶋、長洲の馬牧と浮嶋牛牧と記されている。
935年(承平5)	将門の乱勃発
940年	平将門の乱、藤原秀郷、将門を討つ
1031年	上総の介平忠常の乱、源頼信平定
1118年	忠常の乱後、忠常の子常将に始まる平一族が、千葉氏を名乗り主導権を握っていった。
1156年	保元の乱
1159年	平治の乱
1180年(治承4)	源頼朝拳兵、敗れて安房に上陸し、千葉常胤、平広常らを従えて、鎌倉へ入る。
1183年	上総介広常、謀叛の疑いで殺される。
1192年	源頼朝、征夷大將軍となる
1253年	日蓮、安房清澄寺で日蓮宗を立宗。
1335年(建武2)	千葉氏、貞胤と胤貞に分かれて抗争。